

國學院大學久我山中学高等学校女声合唱部

(旧 中学校音楽部)

2026 Our Thanks Concert Vol.19

《演奏曲目》

Die Capelle (Johann Ludwig Uhland 詩)
(Robert Schumann 作曲)
(本年度全日本合唱コンクール課題曲 F2)

Mater et filia (CarlOrff 作曲)
同声(女声)合唱とピアノのための「その木々は緑」より
その木々は緑(覚和歌子詩 橋山潤子作曲)

いのちの歌 (Miyabi 作詞 村松崇継 作曲
橋山潤子 編曲)

女声合唱曲「風に寄せて」より
風に寄せてその1 (立原道造詩 尾形敏幸作曲)



あなたが歌えと命じる時に
(Rabindranath Tagore 詩 山室 静訳詞 高嶋みどり曲)

この道 (本年度委嘱編曲作品)
(北原白秋 作詞 山田耕作 作曲 橋山潤子編曲)

前へ (佐藤 賢太郎 作詩作曲)

女声合唱とピアノのための「きんぼうげの日々」より
ねぼすけぼうず (本年度全日本合唱コンクール自由曲)
(Walter de la Mare 詩 吉田映子訳詩 橋山潤子作曲)

他

独唱 櫻井 愛子

合唱 國學院大學久我山中学高等学校女声合唱部

Convallaria Choir (旧 OTC サポートメンバー: 卒部生 OG)

指揮 宮崎 直子

ピアノ 栗原 正和

2026. 2. 20. (金) 18:00 開演 (17:30 開場)

小金井 宮地楽器ホール 大ホール 入場無料

JR 武蔵小金井駅 南口下車 徒歩1分

令和7年度 主な活動報告

第80回 東京都合唱祭 (主催: 東京都合唱連盟) (7/21) (於 第一生命ホール)

第80回 東京都合唱コンクール(全日本合唱コンクール東京支部大会) (主催: 東京都合唱連盟)
高等学校の部 Aグループ 金賞 (9/21) (於 文京シビックホール 大ホール)

文化祭ミニコンサート (10/25, 26) (本校 文科会館 内 第一音楽室)

久我山団地の方々のための クリスマスミニコンサート (12/20) (於 本校 文科会館 内 第一音楽室)

2025 こどもコーラス・フェスティバル in 藤岡 & 第26回少年少女合唱団群馬県フェスティバル (12/21)
(於 群馬・藤岡市みかぼみらい館)

東京 春のコーラスコンテスト 2026 (主催: 東京都合唱連盟) ユース・女声合唱の部 (2/22) (於 第一生命ホール)

出場予定

主 催 國學院大學久我山中学高等学校女声合唱部
後 援 東京都合唱連盟
お問い合わせ 國學院大學久我山中学高等学校 03(3334)1151(代)

女声合唱部 顧問 濱

* 未就学児はご入場いただけません。ご了承ください。

《國學院大學久我山中学高等学校女声合唱部》

「國學院大學久我山中学高等学校女声合唱部」は、H16年度より宮崎直子が指導にあたってきた「中学音楽部」が、H26年度、高校生を加える形で発展したものである。

前身の「中学音楽部」時代には、全日本合唱コンクール全国大会金賞(H19.20.23)、NHK全国学校音楽コンクール関東甲信越ブロック銅賞(H18.20)、東京ヴォーカルアンサンブルコンテスト(6年連続中学部門1位金)、春のコーラスコンテスト(中学部門1位&東京都教育委員会賞=中学部門最優秀)、第5回コチャールコンクール(H20)グランプリ等、数々の賞歴を持つ。高校生が入部して女声合唱部となつた2年目から、過半数が中学生の状態で高校の部の東京代表となり、全日本合唱コンクール全国大会高校Aグループの部で2年連続銅賞(H27:埼玉、H28:香川)。東京国際合唱コンクール室内合唱の部で銀賞の1位(R2)。本年度の東京都合唱コンクールでは金賞の2位を受賞。一方、中学音楽部時代より海外の演奏団体への来日演奏等にも出演しており、プロムジカ女声合唱団、カントムス少女合唱団、パンキエッリシングーズ(いずれもハンガリー)、ソフィア少年少女合唱団(ブルガリア)公演における歓迎演奏、テルツ少年合唱団(ドイツ)や兵庫県美少年少女合唱団といった国内外の合唱団との共演も多い。本校の主催の行事では、創立70周年記念演奏会(H26)で東儀秀樹氏と、また、芸術鑑賞会(H30)では「くるみ割り人形」を東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団と共に演、その翌年には、NBAバレエ団の「くるみ割り人形」の公演において「雪片の合唱」で共演。警視庁主催をはじめ、各方面や国内の合唱団より出演依頼もうけ、チャリティーやジョイントの形でのコンサートにも出演。毎年度末には、活動の軸かつ一年間の活動の集大成として《Our Thanks Concert》を催しており、本年度は、R8.2.20(金)小金井宮地楽器ホールで開催予定である。

レパートリーは宗教曲からポップスに至る迄幅広く、ハーモニーの美しさと丁寧な音楽作りは中学音楽部時代より定評がある。世界的合唱指導者のデーネ・シュー・サボー氏からは「日本では殆ど耳にしない清潔な音楽」と、また、作曲家のコチャール氏からは「作曲家の意向を忠実に音楽にする合唱団」など、国内外の諸氏より絶賛され、取材を受ける等その活躍は常に注目を集めてきた。

しかし、活動方針はあくまでも音楽的な技術の向上ではなく、「より鋭い感性を磨くこと」「自分に課されたすべての物事に決して逃げずに向き合うこと」に重きを置いている。音楽を通して、心の力と生きる力を身につけ、美しい音と共に魂を搖さぶる演奏ができることを目標に、いつも楽しく明るい雰囲気の中、学業との両立をはかりながら活動してきた。コロナの為の活動停止により糸余曲折のうち、本年度、本来の週4日の活動体制が復活した。

《櫻井 愛子》

東京都出身。歌曲・宗教曲が専門のソプラノ。古楽から現代音楽まで幅広い時代の演奏において高い評価を得ている。日本語とドイツ語両方の扱いに長けた類稀な歌手として多方面で活躍中。

2023/2024シーズンは、4年に1度開催され、世界的に名高い第24回ヨハン・セバスティアン・バッハ国際コンクール・ライプツィヒ声楽部門にて第5位(ファイナリスト)を受賞、また第93回日本音楽コンクール声楽部門(歌曲)にて第2位と岩谷賞(聴衆賞)を得るなど、国内外での評価を得た。

幼少期より合唱に親しみ、國學院大学久我山中学校音楽部(女声合唱部の前身)に所属、中3の時には全日本合唱コンクールで金賞を受賞。東京藝術大学音楽学部声楽科を経て同大学院音楽研究科修士課程声楽専攻に進学、在籍中にウィーンに留学。発声を始め、ドイツ歌曲を通して、言葉の扱い方の深さを知る。2019年度リヒャルト・シュトラウス国際コンクール第2位(1位なし、日本人初)、第26回ブームス国際コンクール声楽部門第2位を受賞しドイツ歌曲において国際的な評価を得る。また令和四年度第33回奏楽堂日本歌曲コンクールにて第1位を受賞。ドイツ語の学びを糧に日本語の扱いにも高い評価を得た。

声楽を友野玲子、山口道子、佐々木典子、櫻田亮、藤原治道、E.リーンバッハ、ドイツ歌曲をG.フォンターナ、A.キルヒシュラーガー、日本歌曲を塙田佳男の各氏に師事。

《宮崎 直子》

国立音楽大学音楽学部声楽科卒。声楽を藤井典明、伊藤京子、合唱指導を佐藤公孝、ピアノを竹島悠紀子、青木紀久子の各氏に師事。大学在学中より合唱及び声楽のピアニストや合唱指導を始める。指揮者のクリストファー・ホグウッド、若杉弘、演出家ミヒヤエル・ハンベ等と国立音楽大学が演奏した際の練習ピアニストや、NHK全国学校音楽コンクール全国大会金賞を数年連続して受賞した暁星小学校聖歌隊のピアニストも勤める。また、全日本合唱コンクール全国大会金賞校等でウォイストレーナー及び合唱指導に携わった経験も持つ。

当校には、平成6年度より芸術科非常勤講師として勤務。同校音楽部コーチとして平成6年度より9年度迄の4年間、中学、高校両部に主にピアニストとして携わっていたが一旦離れ、授業のみを担当。平成16年度、学校の方針により中学音楽部が活動を高校から独立するにあたって全面的な指導に就き、現在に至る。本校外に於いては、昭和女子大学附属昭和中学校高等学校非常勤講師、合唱指導者、ウォイストレーナー、合唱及び声楽ピアニスト等、幅広い活動を行っている。

《栗原 正和》

東京都世田谷区出身。玉川大学工学部電子工学科卒業。(株)富士通ゼネラル勤務後、ピアノ調律師を経てピアニストに転身。第2回日本クラシック音楽コンクール特別賞及び安藤賞受賞。世界の名器による音の饗宴(名古屋/ザ・コンサートホール)に全国オーディションにより選出され出演。第3回P.I.A.Japanピアノコンクール広岡淑生賞受賞。山梨県芸術祭に出演。ピアノを雁部一浩氏に師事。

デビューリサイタルによるアルバム「ロマンティックピアノに魅せられて」、2ndアルバム「Melody」、3rdアルバム「SONGS」、4thアルバム「Elegance」をリリースするほか、合唱作品(教育芸術社)や室内楽作品、声楽家のアルバムにも参加。NHK-FM「ベストオブクラシック」やBSプレミアム「クラシック俱楽部」など、ラジオ、テレビに出演。また、YouTubeチャンネルに於いても、演奏動画を公開している。

リサイタルなど、ソロ活動の他、声楽の伴奏や室内楽においてもその才能を高く評価され、著名演奏家の信頼も厚い。他にも打楽器を含む様々な洋、邦楽器奏者との共演や、合唱の伴奏、さらにクラシック以外のアーティストとのコラボレーションなど、多彩な活動を展開している。コンサートでは演奏曲目の解説など、わかりやすく軽妙なトークも人気を博し、多くのファンを獲得している。

エンジニア→調律師→ピアニストという特異なキャリアから、レクチャーコンサートや講演なども行い、それぞれ好評を得ている。